

フィリピン台風

「何も残っていない」 救助難航 略奪も

遺体収容が進まず、子供が泣きながら親を捜す。救助物資が届かず略奪に走る被災者たち。台風30号で交通網が寸断され、通信手段も奪われたフィリピンの被災地の惨状が次第に分かってきた。被害の大きい同国中部レイテ島では、少なくとも約20人の在留邦人と連絡が取れない状態となっているという。

【セブ岩佐淳士】風30号によるフィリピン国内での被害が広がる中、直撃を受けた、イテ島タクロバン市11日、被災した21歳女性が発見された。A.P.通信が伝えた。出産したのはエミリー・オルテガさん。駆け込んだ避難所が高潮で崩壊し、その後、タクロバン空港の安全な

島の中心都市タクロバンでは道路や空港、レイテ日本人会の森、義事務局長(7)によるは在留届を出す長期滞在者が約100人お

り、ほかに一時帰国を繰り返して滞在を続ける邦人も相当数いる。A.P.通信によると、

「インフラや通信手段が破壊され、被害が最も大きい地域に支援物資を届けるのが難しい」と話した。略奪の被害に遭ったコンビニエンスストアのオーナー、アウエイナ・ハドロックさんは「倉庫や



11日、台風の被害を受けたフィリピン中部セブ島の道路沿いで、食料などを求めるプラカードを掲げる子供たち＝ロイター

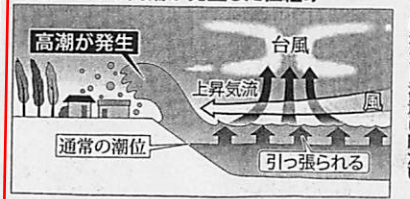
「吹き寄せ」「吸い上げ」で高潮

台風30号による被害が拡大したのは、上空の気流の流れや台風のコースなど複数の条件が最悪の形で重なったためとみられる。

勢力弱まらず「スーパー台風」に

津波のような高潮が発生した仕組み

そこで発生したのが津波のような破壊力の高潮だ。気象庁によると、同国近海は水深の浅い所が狭く、大規模な高潮被害は本来起きにくい。しかし台風30号は比較的遠浅のレイテ島の南を通過。反時計回りに海から海岸に向かい、



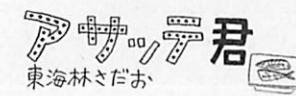
衝突回避車で事故

埼玉の販売店 試乗会 2人重軽傷

埼玉県深谷市は11日、同県深谷市山河の自動車販売店「坂田自動車工業」の駐車場であった試乗会で、障害物を感じて自動的にブレーキがかかる「衝突回避システム」を組んだマツダ(広島県)製の乗用車がフェンスに衝突、運転士と乗客の2人が重軽傷を負った。同署は運転士の可能性やシステム上の問題を含め慎重に事故原因を調べていくという。

同署によると、事故があったのは10日午後0時40分ごろ。試乗会は坂田自動車工業の主催で、約7時先につり下げたワレタマツのシステムは「スマー

(13360)



ト・シティ・ブレーキ・サポート(SCBS)」。時速4〜30km/hで走行している場合、前方の車に接近すると自動的に減速。衝突の危険を感じた場合に急ブレーキがかかる。30km/hを超えると作動しない。

レール幅データ一部食い違いか

JR北、緊急調査

JR北海道がレール幅などの異常が放置していた問題で、同社は11日、レールの検査を担当する部署が現場で測定した数値と、社内データベースの数値の一部が食い違っている